



第131号
 発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会長 市長 竹前稀市
 編集人 会報編集委員 長 男 勝山一
 印刷所 須坂新聞社

自ら問うこと

上高井教育会長 竹前稀市



今年の県中学校長会で次の色紙をいただいた。

「真実に実在を愛する人にとって自己の死は何でもない。大きな交響曲の音が私の一生であろう。発すべき時に発すべき音を発した時、そして消えた。それで一切はいい。秋雨よ、静かに降り続け。」

この文は、木村素衛先生の昭和十一年の日記の一部である。なんとときびしい言葉か。なんと魂をうつ言葉か。「発すべき時に、発すべき音とは」を自らに向かう時、その音は何か。日々問いつづけ、求めつづけなければならぬ音なのかも知れない。

南安曇の堀金小学校に佐藤藤山という校長先生がおられ

た。月曜朝会で、子ども達にきまってる。そして、ひたすらに、「常念を見よ、常念は泣いているかな。笑っているかな。山を仰ぐこと数分—これで終わり。」と言って言葉すくなく、常念を語り、壇をおりられたと云う。

子ども達の心には、どのよう響いたのだろうか。このお話を聞きつづけた臼井吉見先生は、「校長は、子ども達に大自然に直面させ、超人間的な力を悟入させたのだ」と。藤山先生が、常念岳に教育の根本をおき、それに徹して、言葉すくなく、子ども達に語りつづけられた教育は、子ども達の心に永遠の響きを残しているのである。教育において、不易で永遠の課題は人格の完成である。カントは、教育の目的を最高位、中位、最下位の三つに分け、それぞれ、道義的目的、技能訓練的目的、実利的目的に分けたと云われるが、自らは、何を教育の根本におき、子ども達の永遠の

生命に日々、どのような響きを与えているのだろうか。

× × ×

いよいよ新学習指導要領の告示がなされ、新しい教育課程の展開が迫られている。ふりかえれば、過去何回も改訂され、今日にいたっている。その度ごとに、大声で、その特徴的なスローガンも言うべき内容が叫ばれてきた。前回は、「昭和五十二年に告示、五十五年から小学校、五十六年から中学校で完全実施」「ゆとりと充実」であった。この「ゆとりと充実」は十年間の実践を通して、それぞれの学校で、それぞれの教室で、どのように根づき、発展してきているのだろうか。今、また、この成果と世の変化に対応して新教育課程の告示がなされたのである。今回の改訂のスローガンとも言うべきものは、「個性を生かす教育」である。これから、この理念による教育が、各学校で、各教室で実践されな

ればならないのである。とかく、今迄、行われてきた黒板を背に、教科書を片手に進める授業は、大きく様変わりしなければならぬ。その意味で教育改革の具体的実践の責任が負わされているのである。それは、小学校は、平成四年度から、中学校は五年度からの全面実施に向けて、今私達は、何から始めなければならないのか。単なる観念や絵に画いた餅に終わらせまい。自らが真剣に取り組みなければならぬ課題である。そればかりではない。今、日々、問われている人間性喪失、人間としての生き方を育てる心の教育がある。子ども達の姿を見つめる時、登校拒否等の学校不適応、気力、耐性などの情意的問題、学力、基本的生活習慣の問題、家庭環境の変化等様々である。これらの問題の解決と子ども達の姿容は、なかなか容易な事ではない。しかし、どのような問題があろうと、私達は、自らの手で、子ども達と共にその解決をはかっていかなければならないのである。この場合、何よりも必要なことは、子ども達に生きがいと学力を保障する教師集団の知恵と実践である。これこそ、教師的個性というものであろう。つまり、教師としての生き方、信念、そして見識、力量が基底になければならない。「個性を大切にす教育」、それは、まさに、教師的個性の自らの開発でもあるのである。

(相森中)

教育会だより

- | | |
|----|--|
| 4 | 第一回代議員会。第二回選挙管理委員会。理事長選挙。第三回選挙管理委員会。 |
| 7 | 第二回代議員会。第四回選挙管理委員会。副理事長・監事・理事・信教常任委員・信教代議員選挙。第五回選挙管理委員会。 |
| 13 | 教育会会計監査会。 |
| 14 | 第一回常任委員会。研究委員会並びに同好会世話係会(1)。 |
| 15 | 教育会(1)。 |
| 17 | 研究三団体結成会。於教育会館。 |
| 20 | 研究総委員会。於須坂小学校。 |
| 21 | 講演会 中心講師、三枝孝弘先生(埼玉大学教授) 演題「教育実践研究の課題」 |
| 24 | —免許法・指導要領の改訂に関わって— |
| 27 | 第一回研究委員会世話係委員長会。 |
| 27 | 第三回代議員会。新任者会員歓迎会。於教育会館。新任者会員24名。 |
| 27 | 第二回常任委員会。 |
| 27 | 同好会発足会。於須坂小学校。 |
| 27 | 第一回同好会世話係委員長会。 |
| 27 | 教育会定期総会・講演会。於須坂小学校。 |
| 27 | 〇63年度会務報告並びに決算 平成元年度事業計画並びに予算の承認。 |
| 27 | 〇会員意見発表 |
| 27 | 「はじめて高学年を受け持つて」 春日山さだ子教諭(須坂小) |
| 27 | 「情報化社会に向けての学校教育のあり方」 平林 博教諭(常盤中) |
| 27 | 講演会 講師 安良岡康作先生 |
| 27 | 演題「日本文芸発展の跡を顧みて」 |
| 27 | 第三回常任委員会 |
| 27 | 第四回代議員会 |
| 27 | 第13回上高井教育懇談会、於教育会館 |
| 27 | 上高井教育会報第131号発行。 |

郷土の文化財(88)

逢瀬神社

(小布施上町)



鴻山が揮毫した職は分かってるもので二十四方所、四十七本にのぼる、そのほとんどが鴻山の晩年の六年間に書かれている。今回取り上げた、この職は揮毫初期の明治十年ころ、鴻山七十二才の時と推定される作品である。

貨満店 客簇街 と書き、貨は店に満ち、客は街に簇がると読む。

地域と、その人々の発展を祈願した鴻山の心情が強く感ぜられる辞句である。

なお、「三行目の簇の文字は「羅」と書かれている。という説もあるが、方のかきらずし方と糸のかきらずし方とはあきらかに違うので「簇が」の方の説を取った。

(田中)

考えること

研究委員長 小林 考助

考える力は人間が二本足で行動するようになった時から発達したと云われている。頭の前部にあるので、前頭葉と呼ばれている。ひとは誰でも前頭葉を備えて生まれてくる。三才を過ぎる頃から働きはじめ、考えるようになる。

りんご園で遊んでいたK子さんは、実を沢山つけた太い木をみて「太い木は種が大きかったのだ」と考える。数日後、生まれた頃、の写真や初めて歩いた頃の写真、お姉さんになった頃の写真を見てびっくりする。それは、りんごの木が太いわけについて、自分の考えが間違っていたことに気づくからである。

K子さんは一年生であるが自分の考えを持ち、さらにその考えを修正までしている。こういう能力を大切にしたい。木が太いのは種が大きかったからと考えるK子さんに、直に樹齡について解説することは知識の注入である。そればかりか考える力を奪ってしまうことになる。

考えるということは、問題の解決に当って、或いは目標の実現や達成のために、過去のいろいろな経験や知識を組み合せながら、新しい内容にまとめあげてゆく精神活動である。連想・想像・推理・工夫・決断したりといった精神活動である。

本郡のテーマである「子ども

った、感じたことを恐れることなく、素直に表現できる集団にあつては、考える力は伸びる。間違えを笑ったり、非難するような集団にあつては、考える芽は踏みじられる。昨年度の校長研修旅行の車中で長野野間の特急料金が、一人の先生のものに二〇〇円高いことが問題になった。はじめはコンピュータの間違いだらうと処理しようとしたが、A先生は日付の異なることに気づき曜日等により料金が違ふのではないかと考える。後日の調べで繁忙期に特急の普通車指定席を利用すると通常より二〇〇円高いことが解った。考えることは社会の変化に対応できる宝である。(栗が丘小)

同好会発足にあたって

同好会副会長 町田 徳

上高井教育会の事業の重要な役割を果している同好会が、二九三名の参加を得て発足できました。

今年度は、会員の強い要望により道徳教育が新設されて従来からの哲学、文学、美術、音楽、理科、書道、算数数学、体育、地歴、俳文学、技術家庭と合わせて十四の同好会になりました。本年度も、同好会の活躍がしやすいように九回の同好会の日を特設しました。同好会の日には行事や会合をなくして参加しやすいようにしていただきたい。

ここで、同好会がどのような

や東京の学者の門を叩いて教えを請うたと記録されている自己を高めるために身銭を切つてまで励んでいたことをうかがい知ることが出来る。昨年度の同好会の反省には同好会への参加者が少なくしかも出席者が少ない。関心が薄い。若い会員や女性の会員の参加が少ない等の気がかりになることが記されている。

同好会は、好きな者、やりたい人だけがやればいいという考えでなく、教職としての大事な研修の場として考えていただきたい。父母や地域社会の皆さんから私たち教職員へ寄せられている大きな期待に応えるために、研修を重ね専門職としての力量を高める努力をしなければなりません。

一人ひとりの教職員だけでなく、教育会としてもこのような期待に対して委員会の研究と同好会の自己研修を大切な事業とすすめられているのです。車の両輪のような関係にあるので、同好会の活動を大いに盛り上げていただきたいと思ひます。

同好会は、会員相互の研鑽の場にすると同時に、学校や年齢、男女の違いをこえて活動し語り合うことから教育へのすばらしいエネルギーが生まれる場にしてほしいと考えています。

夏期講習会や講演会等で特別な行事がある場合には、広く他の会員にも呼びかけ、大勢の皆さんがご参加いただけるようにしたいと思います。(森上小)

特殊研究者・県外視察者

特殊研究者・県外視察決まる

信教・特殊研究者

氏名	学校名	研究テーマ
小池 勝雄	小山小	長野県の天気理諺にはどんなものがあるか研究会として収集しどんな気象学的根拠によるものか考察する。
丸山 文雄	高甫小	信州高井地方の幕末維新史研究
和田 邑吉	常盤中	常盤中地域に散在する文学碑の研究
丸山 和男	墨坂中	国語科における地域教材の制作
		「生徒一人一人が生きてる指導のあり方」新しい情報基礎導入に向かって技術科(選択)においてコンピュータを利用した情報基礎学習の内容を研究する。

県外視察者

氏名 学校名

柳沢寿美子	柳沢小	家庭科教育	静岡
浦沢 恵理	浦沢小	障害児教育について	北陸
島津 和平	島津小	県外の音楽教育事情視察	静岡
金田 義雄	金田小	教科指導	静岡
武内 正樹	武内小	専門的な学識を深める	関東
早川智香子	早川小	教科指導法	関東
岸田 幸弘	岸田小	教科指導法	東京
小林 辰彦	小林小	教科指導	東京
朝間 春子	朝間小	生活科の研究を深める	関東
北沢 晃	北沢小	子供が満足感を味わえる図工教育の手立てと工夫	関西
窪田 康代	窪田小	生活科についての取組み	富山
齋藤 誠吾	齋藤小	子供を生かす生きと取り組ませるための体育の学習指導の現状	東北
清水 真弓	清水小	子供が自ら自然現象の中から疑問をみつけ解決していこうとする学習指導の在り方	東京
山岸 信之	山岸小	生活科にどう取り組むか	関東
前角 増次	前角小	パソコンの利用様子	千葉
伊藤 幹高	伊藤小	専門的な学識を深める	関東
代田 康博	代田小	数学教育について	東京
久保田英雄	久保田小	道徳的、実践力の育成	東京
溝上 正弘	溝上小	チームティーチングの現状と問題点	関東
笠井 淳	笠井小	生徒が主体的に活動する国語教室の創造の仕方を学ぶ	東京
松本 博人	松本小	生徒指導が美術教育の実践校を視察	関東
滝沢 文子	滝沢小	合唱指導について	東京
丸山 和男	丸山小	コンピュータの教育利用からその内容を学習	筑波
根津 敏文	根津小	民族学資料の教育利用からその内容を学習	東京
堀口 潔	堀口小	パレーボール指導者研修	松山

教育会総会に参加して

服部 英明

今年の四月から上高井にお世話になることになり、こちらの教育会総会に初めて参加しました。土曜日の午後でしたが、大勢の先生方の熱心な姿が心に残りました。

総会に先だって、合唱発表がありましたが、子供たちといっしょに鑑賞していると、なかなか音楽に集中できない事が多いのですが、心おきなく音楽の素晴らしさにひたることができ、嬉しい一時でした。次の会員実践発表ですが、お二人の先生の発表とも素晴

研究委員会と私

百瀬 美千代

私は三年前、技術・家庭科研究委員会で、森上小の六年生で「おにぎりづくり」の授業をさせていただきました。学校で一名だけの委員、そして家庭科の経験のあまりない私は大変不安でした。

小委員会では指導案づくりをしていくうち、一度水加減の違っておにぎりをつくってみましょうということになりました。森上小学校の家庭科室の様子やガスコンロ、おかまなど実際見ていただいたり、本時にかかわるいろいろなおにぎりを先生方にたくさん作っていただきました。その日は結局十時近くまでかかってし

考えさせ、生活を作り出させる努力を続けているかどうか。自分の姿と重ね合わせてみて、春日山先生の実践を今後の自分に生かしていかなければと反省させられました。

最後になりましたが、安良岡康作先生の講演を聞き、上代、古代、中世、近世、現代と、日本文学の体系的な流れを知ることができました。特に、日本文学は中世において最高峰に達し、後の時代は現代に至るまで、停滞の時代である。それと同じように長野県の教育も停滞しているのではないかと、という厳しい指摘を聞き、教師の一人として、努力をしなければと痛感させられました。(須坂小)

同好会と自分

宮本 良明

人間誰しも趣味や好きなことがある。そのことにとり組んでいるとき、忙しい日々の疲れも失せて充足感に満たされる。まさに、趣味は心のオアシスといえる。

上高井教育会の同好会もそういう一面をもっているが、忙しくて同好会に入る暇などない人もいるだろうが、読書など暇があるからできるというものでもない。

さて、かく言う私も昨年は美術同好会、信州理研、道徳学会と会員とは名ばかりで、会費会員の一人にすぎなかつた。

た。案外忙しいと言いつつ、それを口実にしてもう一步の参加の努力が足りなかったのが実情だったように思う。

今年、新たに「道徳教育同好会」が発足した。今年こそはと意気込み、美術同好会をやめ代りに入会した。

しかし、初回は校務のためどうしても出席出来なかつた。

した。教材研究の大切さと、小委員の先生方の研究へのと

り組み方に多く学ばせていただきました。(栗が丘小)

初代PTA会長の案内で、石森延男先生は雁田山の頂上から千曲川の堤防、さらに町内を一巡されたとのことでした。それあってか二章(部分)は流れつきせぬ、千曲川雲をうつつして、清らなりとあり、三章(部分)にはゆたかにみゆる、色紅き

校章・校歌めぐり

小布施中学校

校歌第一章は次のようです。下保の作曲によっています。昭和三十三年十二月、小布施中学校が小布施部校・都支部校から現在地で開校したのと期を一にして制定されたという規約されています。

りんご畑に かこまれてと歌われています。

校章については、学校発足の時、小布施・都住の全生徒並びに町民より図案を募集し、数百点の応募作品を審査し、五点の佳作を見たとのこと。入賞図案並びにその他の全応募作品に見られる次の二点・栗の葉や実の多かったこと・小布施町のマークがあったことも勘案して、栗の葉を五角形に配し、図案としての新鮮味となごやかさを担い中に小布施町のマークを配したとのこと。この徽章やバッジには誇りが秘められていて、伝えられています。(岩井信人)

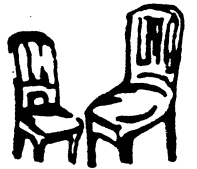


小布施中学校校歌

作曲 石森延男
作詞 山下 隆

（一）(調子付) 栗の葉はかがやきて
五山にのこる 雪白し
われら自覚と 協力の
高き望みを はたさばや
唱)日に新しき 眼もて
合若きこの日を おもいつつ
(いぎのびゆかんとともに
(二)章・三章は略す
これは石森延男の作詩、木

火ばら談義



このごろ 思うこと

山辺 桃江

今、六年生を担任していて、くしていた面もあるのです。つくづく考える事があります。う。後日言葉の知識が増えてくると、分数の割り算で分母と分子を逆にしたり、割合で割つてもとになる量を出す所。教える立場の必要に迫られて、改めてその意味を説明できる様にはなりました。が、自分でも今でも、何となく狐につままれた様な気持ちになります。この調子ですから、多分子でも違も、わかたつもの様な随分と曖昧な世界にいて、各自の方法で頑張っているのではないかと思えるこの頃です。

そう言えば、子ども達が歌っているのを聞くと、ふと昔を思い出しておかしくなる事があります。小学生時代、毎年卒業式に蛍の光を歌ったのですが、全然意味がわかっていなかった。「ふみやむつきひ」や「あけてぞけさは」をおかしな詞だと思いつつも、疑う事なく大声で真面目に歌っていたのです。寂しそうな歌だとは感じ取れていた様ですが、ひらがなの世界であったため、かえって理解を難し

「今年、南園のバラがきれいに咲いたね」「子ども達が草取りをよくやってくれたからな」「初夏のある日の放課後の職員室である。

「今の子どもは、家に帰ってから何をしているのかな」「俺達の頃は、ガキ大将がいて、村の広場へ集まり、戦争ごっこをよくやったな。山から川から墓地まで暗くなるまでかけずり回ったな」「夏休みは、お宮へ集って学習会、大きい者は小さい者に勉強を教えてやった」「道祖神だつて子どもだけで作り、その中で一晩過ごしたんだな、今は大人の行事になってしまったね」「子どもは大人に従属し

先先生になりたての頃は、そういう事が実感できず、子ども達と分かれた後では確認できないのだから、時間毎に皆理解させないとだめだと思っていました。しかし、十年來子ども達と一所に過ごして来て、自分が教える立場になって、またこの年になってやっと理解できた事も沢山ある。わかたつた事にしては曖昧模糊とした部分がある事を、逆に子ども達から教えられる、ものごと本質がわかるのは、いくつになっても難しいものだと思います。そんな体験を通して、今わからなくても、何年後にきつとわかる時が来るのだから、目先の事でイライラせず、先を見通した長い目で子ども達を見守る余裕も必要なのだとやっと思感できるようになってきたこの頃です。

先年の教育会総会の記念講演で、良寛の名がでてくるところがあつた。安良岡先生が、一休禅師にふれたところで、その書について、良い評価をされていらない旨を話されたところだ。良寛はすばらしいと。職員研修で「蓮の露」を読み合わせをし、昨年の年度末に、小池与一先生より、講演「良寛の人生」をいただいたところだったのだ。

良寛

宮下 正己

一休さんの生き方に触れた時に、安良岡先生なら、良寛の生き方や、書、歌などどう評価されておられるのだろう。でてこないかな。と思つて期待していると、ほんの

た生活で、子どもだけの世界がなくなっている。生活の規制が多いから、自立心や夢が無いね」「家に帰れば塾通いか、パソコン・ファミコン・テレビっ子、みんな個が中心

自然にかえれ

瀧澤 忠男

「今年、南園のバラがきれいに咲いたね」「子ども達が草取りをよくやってくれたからな」「初夏のある日の放課後の職員室である。

「今の子どもは、家に帰ってから何をしているのかな」「俺達の頃は、ガキ大将がいて、村の広場へ集まり、戦争ごっこをよくやったな。山から川から墓地まで暗くなるまでかけずり回ったな」「夏休みは、お宮へ集って学習会、大きい者は小さい者に勉強を教えてやった」「道祖神だつて子どもだけで作り、その中で一晩過ごしたんだな、今は大人の行事になってしまったね」「子どもは大人に従属し

一言ではあつたが、結局、それだけだった。その一言がうれしかった。いつか演題を「良寛」としていただき聴ける機会がないもので、その書について、良い評価をされていらない旨を話されたところだ。良寛はすばらしいと。職員研修で「蓮の露」を読み合わせをし、昨年の年度末に、小池与一先生より、講演「良寛の人生」をいただいたところだったのだ。

編集後記

我が校の近くには、明覚山が聳え、周辺には天狗岩、大岩城跡、七カラ石伝説があり又、六世紀代の大塚古墳を初めとして、行人塚、うるし塚と、古代のロマンが眠る歴史文化に恵まれている。この環境を学習に生かしていくことが、今日的な課題でもある。幸いにも十周年行事の一つとして、北庭園に自然林を作つて戴いた。クヌギ・ナラ・万作等五十余種の自然林を、子ども達の夢と豊かな情操を育む森に育てていきたいと思つている。目下名称を募集中である。(日滝小)

なかなかな、暑くならない今年の夏です。本年度一三二号から出発する会報をお届けします。お忙しい中、原稿をお寄せ下さいました。ありがとうございます。報告書をお届けいたします。

委員長 長勝山 一男 (日野小)
副委員長 丸山 武彦 (豊丘小)
田中 義人 (須坂小)
神林 信雄 (高甫小)
望月千恵子 (仁礼小)
中嶋 章 (高山中)
廣瀬 雅弘 (小布施中)
山岸 敬明 (常盤中)
平野 誠 (墨坂中)
渡辺 宣裕 (東中)
信教 (係 田中 廣瀬)